



やけど

まずは、下記の応急処置を行いましょう。

1. まずは、すぐに流水(水道水)で患部をしっかり冷やしましょう。
(最低でも20~30分以上)
2. 水ぶくれはつぶさないでください。
3. 患部には何も塗らないでください。

次のうち、どの症状が見られますか？

- 皮膚が黒く焦げている。
- 皮膚が白くなっている。
- 全身又は広範囲のやけど。

この欄に1つ以上
「はい」がある

救急車を呼びましょう!

- 水ぶくれがある。
- 子どもの手のひらより大きなやけど。
- 顔、関節部、外陰部のやけど。

左の欄に「はい」はなく、
この欄に「はい」がある

休日夜間急患診療所を受診しましょう。

診療時間外の場合

- 水ぶくれはない。
- 子どもの手のひらより小さく、赤くなっているだけのやけど。

この欄にしか
「はい」がない

様子を見ながら、翌日、
かかりつけ医を受診しましょう。

症状が急変した場合

救急電話相談ダイヤルに相談しましょう。

名 称：とっとり子ども救急ダイヤル

電話番号：#8000 (ダイヤル回線・IP電話の場合は0857-26-8990)

相談受付時間：24時間365日



対応のポイント

- やけどをしたら、まず、流水でしっかり冷やしましょう。
- 服を着たままやけどをして、服が脱がしにくい場合は、服の上から冷やしましょう。
- 熱傷範囲が手のひらより小さく、水ぶくれがない時は、夜間・休日に小児救急医療機関を受診する必要はありません。よく冷やしてあげて、翌日、かかりつけ医を受診しましょう。
- 使い捨てカイロやぬるい湯たんぽでも、長時間当たると低温やけどになることがあるため、注意しましょう。



お医者さんに伝えてほしいこと

- 「いつ」、「どこで」やけどをしたか。
- やけどの原因は何か。
(例：熱湯、油、ストーブ、炊飯器やポットの蒸気 など)
- 行った応急処置の内容は何か。